

『品格語辞典』について

『品格語辞典』は、『明鏡国語辞典』の「品格」欄から生まれ、また「言葉選びのための辞典」です。

1 見出し

●ふだんづかいの言葉を見出しとし、五〇〇項目を収録しました。見出しは五十音順に並べました。

●俗語、新語は「俗」を付けました。

●複数の意味がある言葉は①②…で意味を分けました。

2 品格語

●本辞典では、ふだんづかいの言葉に対し、改まった場面で使える言葉を「品格語」と呼びます。

●見出しに対応する品格語の一例を、のべ約三三〇〇項目収録しました。

●品格語を選び、使う際の目安として、品格レベルを示しました。品格レベルは、次の三段階としました。

＋…日常的に使えて、失礼にならない表現。

＋…挨拶文や社交的な会話などで使うと効果的な表現。

＋…格調高く優雅だが、仰々しくなることもある表現。

●品格語は品格レベルの順に並べました(＋→＋→＋)。

品格レベルが同じものは、五十音順に並べました。読みが同じ語は、漢字の画数順に並べました。

3 品格語の用例・解説

●場面や文脈に応じた使い方がわかるよう、すべての品格語に用例を付け、品格語の部分は太字で示しました。小説などの用例は、(～)で作者名や作品名を示しました。

●用例には一般的な表記を示しました。そのため、見出し語が漢字表記でも、用例に仮名表記を用いる場合があります。

●品格語の意味や使い方を適宜、▽で示しました。

●敬語、古風な言葉には敬語、古風、手紙や文学作品で多く使われる言葉には手紙、文学を付けました。

4 その他の解説

●複数の言葉に関する解説を適宜、使方¹で示しました。

●「品格マップ」では、縦軸に品格レベル、横軸にそれぞれ使い分けの目安となる要素を示しました。

5 索引など

●検索の便を図るため、巻頭に「分類からさがす 見出し語一覧」、巻末に「五十音索引」を収録しました。